



隠れた1等星、カノープス

夜空に輝く明るい星、1等星は全部で21個ありますが、冬の時期に東京から地平線ギリギリの南の空で見える1等星があります。その名は、カノープス。

りゅうこつ座の一番明るい星で、「水先案内人」という意味があります。南の低い空で見える星のため、地平線上に出ている時間が短く、カノープスが南中する時間の前後30分が観察チャンスといえます。冬の夜空で一番明るいおおいぬ座のシリウスを目印に、シリウスから地平線に目を向けていくと見つけられ、シリウスが南中を迎える約20分前にカノープスは南中します。夕焼けと同じように、地平線近くで見えるカノープスは赤く見える(実際は白い星)のも特徴です。

そんなカノープス、実は実際の高度よりも少し高く見えるのです。それはなぜでしょうか？

低い空で見える星の光は、空高く見える星の光に比べ地球の大気を通る距離が長くなり、大気による屈折(光が曲げられる)も大きくなります。すると、実際の星の位置よりも高い位置で見えるようになり、この現象を「大気差」と呼んでいます。昔の中国では南極老人星とも呼ばれ、この星を見ると寿命が延びるという言い伝えがあります。見つけるのは難しいですが、その分発見できたら嬉しさ倍増です。東京では南中時刻が20時～21時台となる2月が見ごろです。冬の隠れた1等星を探してみるのはいかがでしょうか？



星の動きを撮った光跡写真。
一番低い所に見えるオレンジ色の軌跡がカノープス。
当館解説員、疋田純之が千葉県勝浦市で撮影

かいせつりん いとう たかひろ
(解説員:伊藤 貴大)